

政府情報システムの予算要求から執行の各段階  
における一元的なプロジェクト管理の強化について  
【概要】

令和元年6月4日

# 政府情報システムの予算要求から執行の各段階における一元的なプロジェクト管理の強化

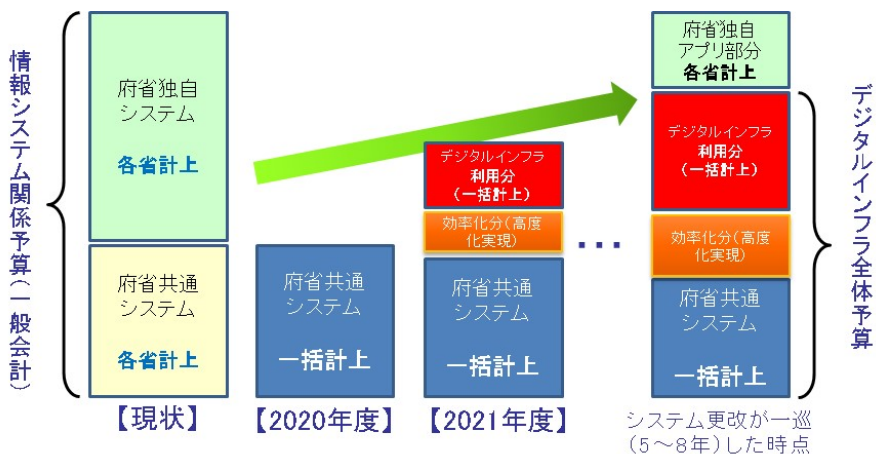
- ✓ 行政のデジタル化の目的は、単に紙をデジタルに置き換えることではなく、業務改革(BPR)を進めつつ、デジタル技術を前提とした政策手法の改革や行政サービスの質の向上を図ることにある。
- ✓ そのためには、政府情報システムの一層の改革を進め、データの標準化、情報システム間の互換性、スムーズな情報連携、高度なセキュリティ対応などの確保を、政府として統一性を確保しつつ効率的に実現していくことが必要。
- ✓ 統一的な政府情報システムの将来的な在り方(グランドデザイン)に基づく横断的かつ業務改革(BPR)を意識したサービス視点での政府情報システムの整備・運用を実現する観点から、政府情報システムの統一的管理のための取組を抜本的に強化。

## 情報システム関係予算の一括計上

- ・現行の府省共通システムを中心に、政府全体で共通的に利用するシステム、基盤、機能等を「デジタルインフラ」と位置づけ、**デジタルインフラの整備・運用に係る予算は、原則として、内閣官房の下に一括計上**。令和2年度(2020年度)予算から順次開始。
- ・内閣官房IT総合戦略室が横断的見地から執行に関与し、**クラウドを始めとするデジタルインフラの活用**、デザインやデータの標準化、セキュリティ・バイ・デザインなど、統一感あるデジタル化を実現。

## 一元的なプロジェクト管理への移行

- ・政府CIOの指揮の下、**IT室が財政当局及び総務省行政管理局と連携**しつつ、予算要求前から予算査定段階、予算執行段階まで、**年間を通した一元的なプロジェクト管理**を令和元年度(2019年度)から一部実施し、順次拡大。
- ・経費の妥当性のみならず、デジタルインフラの整備・利用、デザイン・データの標準化、セキュリティレベルの共通化等に寄与。



## 技術的対話を取り入れた調達・契約方法

- ・機動的かつ効率的、効果的なシステム整備に資するよう、契約締結前に、複数事業者と提案内容について**技術的対話を可能とする調達・契約方法**を、令和2年度(2020年度)から試行的に開始。